18a-PA1-15

課外活動としての学生プロジェクトチームによる科学啓蒙・地域連携活動の教育効果

Educational advantages to be achieved through out-of-curriculum activities by a student project team for science enlightenment and regional collaboration

千歳科学技術大学　　長谷川　誠

Chitose Institute of Science and Technology　　Makoto Hasegawa

E-mail: hasegawa@photon.chitose.ac.jp

１．はじめに

学生の自律性を重視した履修カリキュラム外の学生プロジェクトチームとして活動を展開している千歳科学技術大学・理科工房[1-3]に関して、参加学生のアンケート結果から見られる教育効果と、それが実現できている背景を考察する。

２．参加学生のアンケート結果

平成 25 年 10 月時点で 1 年間以上在籍・活動している学生メンバを対象に、アンケートを実施した（回答学生数 18 名）[3]。本活動で獲得・向上できたと考える能力・スキルを問う設問に対しては、図 1 に示すように「協調性」「コミュニケーション能力」「プレゼン能力」「企画力」などを挙げる学生が多かった。一方、本活動を通して向上の必要があると感じた能力・スキルとしては、図 2 に示すように「スケジューリング能力」「時間管理能力」「指導力」などを挙げた学生が多い。

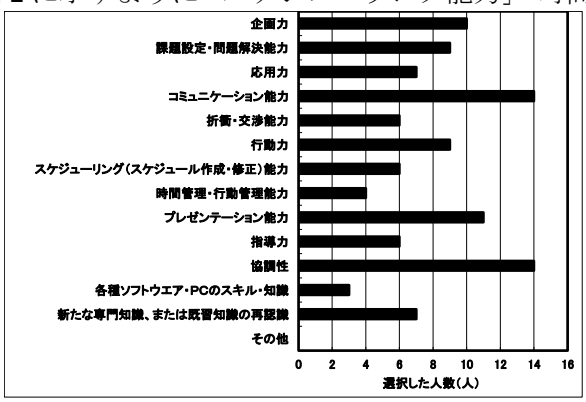

図 1　獲得したと感じた能力・スキル

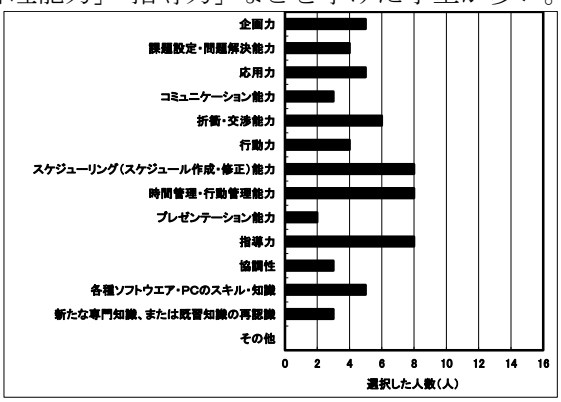

図 2　向上の必要を感じた能力・スキル

コミュニケーション能力や協調性はチーム活動の成果と考えられ、実質的に PBL 活動が実現できていることによる。一方、スケジューリング能力や指導力の欠如を感じた学生が少なからず存在する点は、年間 60 件を超える活動件数の実現、複数学年にまたがる活動の実施など、通常のカリキュラムでは実現が難しい特徴に起因すると想定され、課外活動の有効性を示唆している。成績評価に無縁で学生が失敗を恐れずに活動できることも、課外活動としての有利な点である。

３．おわりに

参加学生達も本活動による単位取得には否定的であり、今後も課外活動の形態は維持していく。

参考文献: (1)長谷川,川原 : 2013 年第 60 回応物春季学術講演会講演予稿集, p.01-031,No.28a-PA1-15(2013-03) (2)長谷川,川原：応用物理教育,vol.37, no.2, pp.91-94 (2013-12) (3)長谷川：第 24 回物理教育に関するシンポジウム講演予稿集, pp.40-41 (2013-11)

© 2014 年　応用物理学会